

学校だより

小川中学校

No. 1 2

平成27年 7月17日

文責：校長 佐藤正則

やり通しました、1学期 ◆無遅刻連続日数102日に◆

1学期の大きな成果は、全て無遅刻を通したことです。始業式・入学式のその日から学期終了まで続けました。しかも、いわゆるギリギリ登校者はほとんどなく、7時40分には登校終了となり、どの学年も身の回りの整理整頓を終え、読書活動に入っています。特に1年生は見事に習慣付いています。

また、朝、特設駅伝部に約60名の生徒が所属して走っていますが、単に走っているのではなく、目標を持って規律よく練習している姿がとてもすがすがしいです。

生徒会専門委員会の活動も、かなり自主性が見られ、日々の活動が確実に進められていることに感心しています。こうしたことは保護者の皆様のご理解とご協力があったのことと感謝申し上げます。

2学期は、こうした状況を継続させると共に、創造性を生徒会活動や行事、部活動で発揮できるよう指導していきたいと考えています。



有難うございました。 授業参観・学年懇談会

7月13日、今年度初めての授業参観を行いました。今回は、全学級、学級担任による道徳の時間の指導でした。

今年度、本校は県の道徳教育研究推進校の指定を受け、市の道徳教育推進を牽引する立場にあります。そういうこともあって、道徳の時間を公開しました。道徳の時間は、中学校は31年度より「道徳科」という教科という扱いになり、指導の仕方も変化していきます。それを少しでも先取りできればと取り組んでいます。



更生保護女性会会長賞受賞 北地区日本語弁論大会

7月16日、中央台南中学校体育館で行われ、本校からは3年の草野拓己君が出場しました。

思いを堂々と発表し、聴衆に感銘を与え、上記の賞を受賞しました。

県総合体育大会で5位に!

7月12日行われた大会で、高校生も出場する少年Bの砲丸投げで、3年鈴木颯斗君が、自己記録を更新し、5位に入賞しました。

ネパール地震募金 14,004円

JRC委員会が取り組んでいた募金活動です。今年のJRC委員会は、花壇の整備から維持、募金活動と中村先生の指導の下、安田委員長を中心によく頑張っていて、感心しています。

勉強の仕方は自分で見つける

学力を上げる秘訣その3



以前に、メキシコオリンピック(君たちが生まれる前です)で銅メダルを獲得した日本サッカーチームのストライカー釜本選手の講演を聞いたことがあります。その中で、高校の受験勉強についての体験を話していました。釜本選手は、小さい時から毎日がサッカー漬けで、ほとんど勉強らしい勉強をしてこなかったそうです。そのため、中学3年生となり、いざ、受験勉強を始めようと思っても、何からどのようにやれば良いのか、さっぱり分からなかったそうです。勉強の仕方を人に尋ねても良く理解できず、机に向かって教科書を開くことぐら

いしかできなかった。しかし、さすがは一つの道を究めた人です。「逃げ出さず、投げ出さずやってみよう。教科書を読んでみよう」と諦めることなく、根気強く続けていたら、だんだん勉強の仕方が分かってきたということでした。

保護者の方から「うちの子は勉強の仕方が分からないようなんですが?教えてください。」という質問を受けることがよくあります。いろいろなやり方は教えられるのですが、それも結局は自分でやってみて、自分なりのやり方を見つけ出せるかどうか、そこまでやり続けられるかどうかにかかっています。

勉強する場所の環境を整えることも大切です。必ずしも個室の勉強部屋を用意する必要はありません。居間の一角や台所近くでやった方が能率が良いというお子さんもいます。どこでやるにも右の点は注意が必要です。

- 1 音がうるさすぎない。
- 2 手の届く範囲に、漫画や雑誌などが無い。
- 3 テレビが正面にない。
- 4 スマートフォンやゲーム機が近くにない。

中学生ボランティア活躍 小川たけのこ倶楽部通学合宿

7月9日~11日まで行われた小学生の「小川たけのこ倶楽部通学合宿」に、今年は11名の本校生徒が、ボランティアで参加しました。

テント泊のためのテント設営やバーベキューの竈の設置や火起こし、夜間に行った小川中学校校内見学(肝試し)での世話など、大活躍だったようです。係の方から「よく動いてくれて、大変助かりました。」と感謝の言葉をいただきました。

テント泊や火起こしなど初めて経験する生徒も多く、肝試しでの脅かし役など結構楽しんで手伝っていました。



花いっぱい運動で花を寄贈!



例年、JRC委員会が行っている町内の公共施設等への花の寄贈ですが、今年は、苗を購入するのではなく、種子から苗を育て上げてつくりました。

これは、東京都の「道で咲かせよう、東北の花プロジェクト」に協賛し、東京都から種子や培養土、プランターをいただいて作業したものです。育てた苗の一部は、東京都に送り、都内の道路沿いに植えられることになっています。